函館のまちづくりを考える 第15号
平成22年12月末 発行

はこまち通信

発行 ： 函館市地域交流まちづくりセンター
http://www.hakomachi.com/

TAKE FREE　ご自由にお持ちください！

まちセン講座情報

函館山の歴史をめぐる講座　番外編
『函館山の花々の名前を知る』

函館山の花の名の由来や
まつわる話などやさしく解説

日程：2011年２月９日（水）「春の花」
２月16日（水）「夏･秋の花」
講師：横内輝美（まちセンスタッフ）
詳しくは、まちづくりセンター窓口へ
電話 0138-22-9700

もくじ

・特集　はこまち対談
・シーニックバイウェイ北海道
　函館・大沼・噴火湾ルート情報
・箱館奉行所と函館開港（その２）
・はこだてのＮＰＯ　～市民活動団体の紹介～
・「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス
　～もっと良い会議をつくるコツその３（前編）～
・はこだて「まちのチカラ」サポートデスク
　～夢の実現　佐藤 悦子さん～
・ようこそ！どんぐり2号店

市民活動支援セミナー

市民活動団体／ＮＰＯの人と組織をどう育てるか？
主催：北海道　委託実施：旭川ＮＰＯサポートセンター

2010年12月17日からの3日間、ＩＩＨＯＥ[人と組織と地球のための国際研究所］代表の川北秀人さんを迎え、ＮＰＯの組織運営に関して『内部の資源である人材・情報・目的などを、最大限に活用しているか？』『ニーズを理解・共感した組織の編成』『事業記録の取り方』など、あらゆるノウハウをご伝授いただきました。

特集 はこまち対談

Part 14

商店街とともに、 夢をひろげたい

能登 正勝（のと まさかつ）氏　現在 33 歳

〈PROFILE〉

精神障害者保健福祉手帳２級　境界性人格障害・気分障害（うつ病）
05 年 4 月に、精神保健福祉の現状を危惧し、当事者活動の必要性を訴え続ける。同時に当事者団体にも参加、当事者活動を続け、平成 19 年 1 月、ＮＰＯ法人日本障害者・高齢者生活支援機構の理事長就任、当事者側の委員として、岩手県精神保健福祉審議会 委員に就任、平成 19 年には世界 120 国が参加する。ＮＧＯ組織のＤＰＩ北海道ブロック理事に就任し、地域のコミニュティ作りをテーマに講演活動をし、精神障がいだけではなく、身体・知的障がいも含めた障がい者活動の場を広げている。また、平成 22 年 6 月より中島町商店街振興組合専務理事に就任し障がい福祉だけではなく、商店街活動にも力を発揮している。

島 信 一朗（しま しんいちろう）氏　現在 41 歳

〈PROFILE〉

身体障害者（全盲）
社団法人函館市身体障害者福祉団体連合会副会長、社団法人函館視覚障害者福祉協議会理事長、函館市障害者基本計画策定推進委員会委員、国立函館視力障害センター非常勤講師、北海道運輸局バリアフリーリーダーインクルーシブ友の会代表、北海道ＣＢ・ＳＢコーディネーター、北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会代表、ユニバーサルスポーツフェスタ実行委員会代表、函館大谷短期大学非常勤講師、中島れんばい横丁開催運営実行委員会代表

今回は、 中島廉売の中にオープンした、中島れんばいふれあいセンターの活動について、 理事長の能登さんと、 支援者の島さんにお話をお聞きしました。

丸藤：ふれあいセンターのオープン、おめでとうございます。

能登：ありがとうございます。平成２２年12月２０日にオープンしました。ＮＰＯ法人の事務所と就労継続支援Ｂ型の事業所の他、定期的に“れんばい横丁”を開催していきますし、全国的にも珍しいのですが地元の商店街振興組合の事務所も入ってます。

丸藤：なぜ中島廉売の中で活動しているのですか？

能登：前は石川町に事務所を置き障がい者の相談を受ける活動をしていたのですが、とても不便でした。障がい者支援は、公共交通機関が充実している所で行わなければ出来ません。青森に、SANNet 青森という精神障がい者を支援する団体があって、商店街の中で共に活動しています。私達も、そういう所がないかなと探している中で中島廉売との出会いがあり、僕らが商店街の活性化を手伝いますよということで皆さんにもご理解いただき、平成２０年１１月に引っ越してきたんです。

丸藤：活動を始めたきっかけは？

能登：私自身が精神障がいの当事者なのですが、函館に来た時に、障がいを理由にアパー

トを借りられなかったりしました。それで、当事者として活動していかなければだめだと思い、今に至ってます。

島　：能登さんとの出会いは平成１７年からですが、当初から志がありました。実は負けず嫌いで、エネルギーがあり、沢山の支援者ができている。それが形になったのが、このふれあいセンターです。そういう能登さんの直向きに志すものを感じて、体重は重たいけど支えなきゃなと。（笑）

丸藤：オープニングセレモニーには、多くの方が参列していましたね。

能登：本当に嬉しかったです。「お金を払って来てもらうことはたやすいけど、逆にお金を使わして来てくれるって、あんた感謝しなきゃだめよ」と、ある人に言われました（笑）

丸藤：毎月第４金土に行っているれんばい横丁も、今度からはふれあいセンターが会場ですね。

能登：中島廉売には食べるところが無いよね、という声がありました。それと、僕の障がいは目に見えなくて、説明することがとても難しい。ならば違う形で、どうしたら分かってくれるだろうかという時に、みんなでお茶を飲んだりご飯を食べたりお酒を飲んだりして、夢を語ったりお互いの話をする。そういう場をつくろうと。そうすれば、自分たち、当事者の活動も広がるんじゃないかと思いました。毎日は無理だけど、月に２日間ならできるし、食べ物やさんもできるし、商店街に人も呼べるからいいよねと。

丸藤：平成２２年の１２月で２５回目ですね。

能登：最初は、後片付けもほとんど１人でやっていました。でも、昨年、ＤＰＩという全国の障がい者の集まりが函館であったとき、色んな方が来てくれて、これは良いと言ってくれました。色んな障がいをもった人が集まっている。地域のおじさん、おばさん、子ども達、お年寄りもいる。楽しみに来てくれるファンの方もできました。これが切掛けで商店街に来る若い子連れの夫婦なども増えたんですよ。

島　：私は最初に来た時に褒めちゃったため、引きずり込まれ実行委員会の代表になってしまったんです。だから、もう褒めないようにしている。（笑）

丸藤：なぜ褒めちゃったんですか？（笑）

島　：それはね、空気が凄かったです。自然なんですよ。見えない自分がいて、聞こえない人がいて、車いすの人もいるし。それが自然になってる。となりのテーブルの人ともすぐ友達になれちゃう近さ。お年寄りがいて、お母さんが美味しいもの食べてて、走り回っている子どもを見ず知らずの大人が面倒見てる。障がい者、健常者、年齢性別、全ての人達がいるという空間を、私は感じたことがなかった。それで、「たいしたものだなあ！」と言ってしまったんですよね。（笑）

丸藤：私も行った時に感じたのですが、あの空間を経験した子どもとそうでない子なら、ずいぶん育ち方も違ってくるように思います。とても良い経験の場所です。

能登：障がいを持った人と接する機会って、日本の教育では残念ながら少ないですからね。

島　：障がい者と一緒に何かしていくことが、当たり前になっちゃいます。

能登：中島廉売に来ると障がい者が働く姿も見られて、物を買う時お金が回る。こういった地域はあまりないと思います。

丸藤：この先の計画や想いを教えてください。

能登：れんばい横丁は、出店数や企画も増やしたいです。ただ、無理はしないで、手作りで優しさ温かさを持って毎月やっていきたい。障がい者は、施設から地域へと言われています。ここをベースに色んな方が新規の事業を始め、それが商店街に来る切掛けになったり、障がい者の雇用につなげていく場所にしていきたいですね。

島　：教育とか福祉とか、そういう地域力や資源というのはまだまだつながりが薄いので、ネットワークを作るための拠点になればいいなと期待しています。

能登：親方は、注文うるさいんですよね（笑）

丸藤：まちづくりセンターも、応援していきたいと思います。

島　：滞在力のある良い地域なので、夢が広がりますね。

＜聞き手＞
函館市地域交流まちづくりセンター
センター長　　丸藤　競

シーニックバイウェイ北海道
函館・大沼・噴火湾ルート

今回は、平成18年度より実施している「シーニックdeナイト2011」と関連する事業についてご紹介します。「シーニックdeナイト」とは、函館市や大沼の国道や道道沿線を中心に、手作りキャンドルを設置するイベントです。手作りキャンドルによるほのかな灯りが、ドライバーや住民、観光客の心を温かくし、安らぎを与えてくれます。詳細は、函館市地域交流まちづくりセンター等に置いてあるポスター及びチラシをご参照下さい。なお、今年度のシーニックdeナイトは、平成22年度地域づくり総合交付金地域づくり推進事業の補助金を活用して実施しています。

◆シーニックdeナイト2011

【日　時】　平成23年2月1日(火)～13日(日)
【場　所】　下記
【主　催】　シーニックdeナイト2011実行委員会
【問合せ】　0138-45-7576（シーニックdeナイト2011実行委員会事務局）

○函館市地域交流まちづくりセンター(2/1(火)～3(木))
○大沼国定公園(2/5(土))
○南茅部公民館(2/6(日))
○西部地区赤レンガ倉庫群(2/11(金)、12(土))
○旧戸井線(富岡交番付近)(2/12(土))
○函館新道(函館IC付近)(2/13(日))

▲昨年度の函館新道の様子

▲昨年度の大沼の様子

◆はこだて光の小径

【日　時】　平成23年2月1日(火)～7日(月)
【場　所】　西部地区(2/1(火)～3(木))、五稜郭タワー・五稜郭公園(2/4(金))
　　函館山登山道(2/5(土)、6日(日))、函館市地域交流まちづくりセンター周辺(2/7((月))
【主　催】　はこだて冬フェスティバル実行委員会
【問合せ】　0138-27-3535（はこだて冬フェスティバル実行委員会事務局）

◆キャンドル製作体験会

シーニックdeナイト2011及びはこだて光の小径で使用するキャンドルは、市民や観光客等の手作りにより出来上がります。参加無料となっておりますので、みなさんのご協力宜しくお願いします。

【日　時】　平成23年1月8日(土)、15日(土)、29日(土)　　10:00～15:00
【場　所】　五稜郭タワー1F　アトリウム

◆カーボンオフセット型　シーニックバスツアー

シーニックdeナイト2011及びはこだて光の小径を体験するバスツアーを2本用意しました。詳細な内容は別途バスツアー概要＆申込書をご覧下さい。また、このバスツアーは、バス走行により排出されるCO_2を、シーニックの森「きじひき森林公園」へ代行植樹することによりオフセットする、カーボンオフセット型ツアーとして実施します。

○大沼冬の満喫ツアー
【日　時】　平成23年2月5日(土)　10:30～19:30
【定　員】　先着40名
【料　金】　大人4,500円、小人3,500円（当日徴収）
【内　容】　わかさぎ釣り、ランチ（リバージュ）、スノーシュー、シーニックdeナイト2011鑑賞

○大沼冬の満喫ツアー
【日　時】　平成23年2月6日(日)　10:30～
【定　員】　先着40名
【料　金】　大人1,850円、小人1,600円（当日徴収）
【内　容】　浜の母ちゃんの手料理（旧戸井町）、縄文拓本取り体験（旧南茅部町）、シーニックdeナイト2011鑑賞、函館山登山道ウォーク（※オプション）

箱館奉行所と函館開港（その 2）

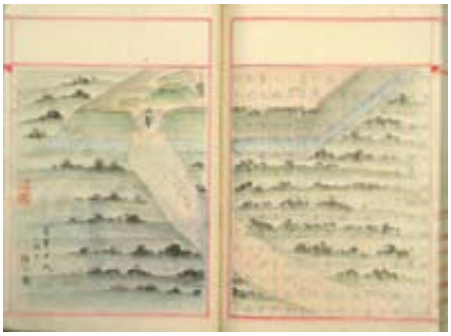
中尾 仁彦　箱館歴史散歩の会主宰、第1回 函館検定 上級試験合格、ＮＨＫラジオ「どどんと道南ラジオ」に月１回レギュラー出演中。

写真：箱館でのペリー会見の様子
（函館市中央図書館所蔵）

蝦夷地幕府直轄と防衛構想

鎖国を解いた幕府は、諸外国に対する防衛策として、ペリー来航の 2 カ月後に箱館とその遊歩地域 5 里（約 20 キロ）四方を松前藩から没収し、幕府直轄とした上で、箱館奉行所を函館山の麓（現在の元町公園付近）に設置します。さらに幕府は北方防備のため、五稜郭築造と 7 つの台場築造を計画するのでした。

さらに 1855（安政 2）年には防備を一段と強化するため、蝦夷地の大半を幕府の直轄地とし、松前・弘前（津軽）・盛岡（南部）・久保田（秋田）・仙台の 5 藩が防備を分担します。弘前藩は千代ヶ岡（もしくは千代ヶ岱。現在の千代台町付近）、盛岡藩は現在の元町配水場付近にそれぞれ陣屋を設置しました。松前藩も戸切地（現在の北斗市野崎）に、4 つの突出した保塁と 6 門の砲座からなる西洋式城郭を設け、郭内に陣屋を配置します。現在はサクラの名所として、春に多くの花見客でにぎわいを見せます。



写真：「『蝦夷錦』千代岡陥落の図」
（函館市中央図書館所蔵）

写真：左奥に建つのが元町にあった
箱館奉行所とされる
（函館市中央図書館所蔵）

箱 館 奉 行 所 設 置

箱館奉行所の任務は、千島・樺太を含む広大な蝦夷地の開拓と統治、箱館開港に伴う対外関係の円滑化でした。さらに箱館を中心とする海岸防備も急務で、箱館奉行の人数は当初 2 人でしたが、後に 3 人体制に強化され、その任務の重要度を増していきます。

開港後、外国人に五里四方の遊歩を認めたことで、箱館山から見下ろされる等の安全上の見地から、少しでも市街地から遠ざけ、また箱館湾からの各国軍艦の標的にされない場所への移転を考えます。第一候補に大野市渡（現在の北斗市内）、第二候補に神山（現在の函館市内）が挙がりました。しかし、通信手段が不十分な時代ゆえ、港および弁天岬台場との連絡を円滑にするには遠すぎるために、港から直線距離で 3.5 キロ離れた（当事の大砲は 3 キロ程度しか飛ばないとされたのが理由）、亀田の中心にあたる現在地に妥協します。当時、元町の奉行所は水不足で悩んでいただけに、亀田川の水を容易に取り込めるのも選定理由の一つでした。

1454（享徳 3）年、津軽から渡来した河野政通がアイヌとの戦いのために「館」を設置以来、時代の転換とともに組織体は変わろうとも、常に本拠を元町に構えてきた箱館のお役所が、初めて亀田・五稜郭へ移ることになります。

写真：箱館亀田一円切絵図
（函館市中央図書館所蔵）

「函館観光情報サイト　hakobura」より転載

ご案内

中尾仁彦さんの初版本「箱館はじめて物語」（600 円）をまちセン内 cafe Drip Drop で絶賛好評発売中です。

はこだてのNPO

函館には現在約400以上の市民活動団体があり、実にさまざまな活動が行われています。その中からピックアップして毎号ご紹介しています。

01 親子・家族が楽しむ力「ソダツチカラ」

代 表 者 ： 山形 麻衣華
連 絡 先 ： Mobile 090-7643-6177　山形 麻衣華
090-9087-0686　森岡 美樹

活動の目的：

親子・家族が様々な体験を通して絆を深め（イベント内でのワークショップ・親子ヨガ・ベビーマッサージ）を本来持っている「こどもが育つ力」「親として育つ力」「家族の持つ力」を引き出して高めていくことを目的にしています。

主な活動内容：

① 年１回のワークショップを含めたイベント活動
② 季節に応じたハロウィンやクリスマスなどのイベント活動
③ 親子の絆を深める
・親子ヨガ
・ベビーマッサージの活動

ファミリーイベント「GreenFamily」

02 NPO法人 亀尾年輪の会

代 表 者 ： 田村 冨作
事 務 局 ： 〒042-0902 函館市鉄山町 36-11 電話 0138-58-3859（橋田宅）
亀尾ふれあいの里ウェブページ　http://www.kameo-fureainosato.com

泥まみれ、汗まみれの田植え体験会

活動の目的：

私たちは函館市東部の亀尾地区で、農畜産を通して地域の活性化に取り組んでいます。

2008（平成20）年度からは市民農園「函館市亀尾ふれあいの里」の指定管理を受託し、子供らの田植え体験会・収穫感謝祭なども開催しています。

また2010（平成22）年度には函館市と連携して、休耕田を利用した酒米づくりや遊休牧用地での飼料生産などにも取り組んでいます。　　会員数： 60人

秋の収穫感謝祭ではドサンコ乗馬が大人気

03 ナナカマドの会

代 表 者 ： 庵原 真利
連 絡 先 ： Mobile 090-1648-9180
（21:00 ～ 22:00　この時間帯以外のお電話には出られません）
E-mail: nanakamado_imari@ncv.jp

活動の目的：
　心に病を抱える患者をもつ家族の会で、悩みを打ち明けあい、交流会を持つ。また、地域の方に広く理解を求めることにより患者と家族が地域社会から孤立しないことを目的とする。

ご家族にこころの病を抱えている方
悩みを打ち明けあいませんか？

主な活動の内容、活動状況など：
　毎月第４土曜日　19:00 ～ 21:00　まちづくりセンターで交流会を開催
　参加料　200 円
　（私たちは専門家ではなく、患者を支えている家族ですので、ご相談等にはお応えできません）

会 員 数 ：　５名
加入条件：　心の病を抱える患者の家族

---

04 函館宝島研究会

代 表 者 ：　佐藤 たみ子
連 絡 先 ：　〒041-0852 函館市鍛冶１丁目 35-8-2　（株）アイスタイル内
TEL 0138-54-2307

団体の目的：
① 函館の宝物となるべき文化、人、物を探し出し、それを価値ある形で世に送り出す、発信する会になることを目指す。
② 宝物がもつ「創造力」、会員がもつ「応援力」、「企画力」、それぞれが持つ力を結合し、その「結合力」を「発信力」へと進化させていくことを目指す。
③ 活動を通じて多くの交流が生まれ、元気で豊かな地域になっていくことを目指す。

主な活動内容、活動状況など：
① 共通の学びの場を通じて、地域社会への貢献のあり方を会員相互で学び、考えていく中で、価値観の共有が生まれ、その価値観に基づいて活動していく。
② 毎月第２週目の火曜日（祭日の場合は、翌日）に定例会を開催する。

会 員 数 ：13 人
加入条件：学びを共にし、共有の価値観で行動できる人

登山家　栗城史多氏 講演会の様子

05 NPO法人 函館フォトアーカイブス

代 表 者 ： 理事長　津田 基
連 絡 先 ： TEL 0138-27-1018

活動目的：
　不特定多数の人々に対して、広く写真図書・資料を公開し、写真に関する研究事業を行い、写真文化の発展に寄与することにより、不特定多数の人々の利益の増進を図ることを目的とする。

主な活動の内容、活動状況など：
　2001 年 10 月　豊川町に、はこだて写真図書館を開設する。以後、はこだて写真図書館を拠点にして、ワークショップ、写真展を開催。写真講座等　毎年活動を積み上げている。
　2007 年 9 月　写真図書館　閉館 その後、まちづくりセンター、道立函館美術館等公共スペースで写真展活動継続。日常的に会員相互の写真研究活動を続けている。
　2010 年 8 月　函館大町に小さな写真、図書展示スペースを開設。

会員数：　100 人
加入条件：　なし

Re.mole　ギャラリー **リ・モール**
函館市大町 6-16（大町電停向かい）
連絡先 090-6999-2828
開館時間 /　木～日曜日　11：00 ～ 17：00
休廊 /　月・火・木　及び　1 月～ 3 月

06 函館フルートオーケストラ

代 表 者 ： 池田 桂子
連 絡 先 ： Mobile　090-9753-0232（河井）

活動の目的：
　フルート演奏を愛好する者同志が集まり、合奏演奏を楽しむことを目的とする。音楽を共有する時間を持つことで、親睦が深まり、更に練習の成果をボランティア活動などを通して発表することで、社会的にも貢献していく団体を目指していきたい。

募集中
団員随時募集中（経験不問）

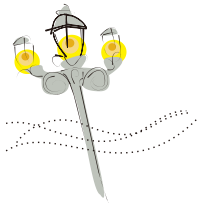
主な活動内容：
　福祉施設にてボランティア演奏、旧函館区公会堂にてコンサート、東京より演奏家を招聘しての演奏会

クリスマスコンサート　五稜郭タワーアトリウムにて

「ＮＰＯ」ワンポイント・アドバイス

～もっと良い会議をつくるコツその３　アイデアを出すための１０の心得！（前編）～

多くの団体が、アイデア出しに苦労しています。そこで２回にわたり、より多くのアイデアを出すための会議術をご紹介します。



❶「何のために、何のアイデアを出すのか」をはっきりさせる。

アイデアを出す会議なのに、ついつい議論が拡散してしまうことがあります。参加者が途中で分からなくならないように、「何について考えているのか」を全員が見える場所に書き出しておきましょう！

❷ 適切なメンバーを集める。

仲間うちだけでなく、その分野に詳しい人や、違う世代や性別、違うバックグラウンドを持つ人等にも積極的に参加してもらいましょう。参加人数は４～６人くらいが適切です。それ以上の時はグループ分けなどをしましょう。

❸ アイデアが出しやすい場所に行く、空間をつくる。

ゆったりと落ち着いた雰囲気の部屋がおすすめです。関連する書籍等を置いておいたり、できるだけ現場と近い場所でアイデアを出し合うこともポイントです。

❹「安全な空間」をつくる

アイデアが出ない理由のひとつに、「こんなことを言ったら批判されるかも」という恐れがあります。はじめに、「何を言ってもいいですよ。どんなアイデアも歓迎しましょう！」と、“ 安全宣言 ” をしておくことも重要です。

❺ 個人が考える時間を設け、それから全体で討議する。

いきなりアイデアを出してと言われても、難しいものです。冒頭で数分間、個人がしっかりと考えてアイデアを出しメモ書きをしておける時間を持ちましょう。また、事前に「宿題」として考えておいてもらうことも効果的です。

相談希望の方は、 まちセンへ

まちづくりセンターでは、もっと具体的な「良い会議のつくりかた」についての相談も受け付けています。お気軽にご相談ください。

参考資料：［ＩＩＨＯＥ］人と組織と地球のための国際研究所発行『ＮＰＯマネジメント』

センター長のつぶやき

丸藤 競

先日札幌で、「めざせ！新しいふれあい社会」というフォーラムの進行役をしてきました。第２部スペシャル対談のゲストは、さわやか福祉財団の堀田力理事長と、北海道大学公共政策大学院の中島岳志准教授。まちづくりや居場所の大切さについて、熱く分かりやすく語ってもらいました。その中で印象に残っている言葉をひとつ紹介します。

＜裸足で道を歩いた人が、尖った石を踏んで怪我をしました。この人が怪我をしないためには二つの方法があります。一つは、地上の陸地全てにゴムを敷き詰めてあげる。もうひとつは、その人が靴を履くこと。どちらが現実的で効果が高いか？

当然、靴を履くことですよね。自ら動こうとしないくせに、○○は何もしてくれないと文句ばかり言う。これでは、いつまでたっても何も解決しないままです。新しい年、積極的に自分で靴を履き、色々な現場に出かけて行きたいと思っています。

まちのチカラになりたい、
まちのチカラを求めたい、
まちのチカラを応援したい

はこだて「まちのチカラ」サポートデスク

アクティブシニアの活躍も応援！

http://www.hakomachi.net

夢の実現

市内の高校を卒業してバスガイドとして働き、道内の観光地を巡るうちに、いつしか函館らしいスイーツを作りたいと思ってきました。今までどれだけの種類の甘いものを試食してきたことでしょう。いつかはと夢に思いながら、年ばかりが過ぎて行きました。

そして5年前、ＮＰＯ法人どうなん「学び」サポートセンターが支援している、どうなん・追分シーニックバイウェイルート運営代表者会議で、木古内町内の末広庵の竹田さんを店の後継ぎと紹介されました。竹田さんは、その時私がいきなり「いつか一緒にお菓子を作りたいですね！」と話したことを覚えてくれていました。あれから5年、竹田さんとの打合せと味の確認などを行って、和菓子『ありがとう』がとうとう実現し、販売するまでに至りました。

この間、バスガイドの仲間やドライバーたちに試食の感想やアドバイスなどあれこれとご協力いただき、包装袋の『ありがとう』の文字は、ドライバー歴４０年の鷲田さんにお願いしました。『ありがとう』と名付けたのは、かかわってくれた多くの方々に感謝の意を表現したかったからです。本当にありがとうございます。

そしてこれから大人になる子供たちへ、この言葉を笑顔で言えるように願いを込めています。人生の中で一番うれしい言葉だと思っています。命ある限りいい続けたいと思います。

心を込めて、『ありがとう！』と。

佐藤 悦子 さん

ＮＰＯ法人どうなん「学び」サポートセンター前理事長　故･奥平忠志氏にホスピタリティとは何か、地域連携の素晴しさと必要性そして行動力を学ぶ。まちセンスタッフ横内輝美氏に、函館山の素晴しさを学び、横内さん率いるムックリ七味のバンドにも参加。「はこだて暮らし連翔会」日本折り紙協会講師の松見博子氏の折り紙教室に通い、バスのお客様に折り紙を差し上げる活動をしています。

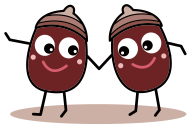
ゴマと道産コンブを練り込んだこしあんを生地で包んで焼き上げています。ゴマの香ばしさと上にかかった黒糖がとてもよくマッチしています。

焼菓子　　品名：　ありがとう
　　原材料：　黒糖、昆布、小豆、ごま 他
　　製造：　孝行餅本舗　末廣庵　（木古内町）01392-2-2069

一つ 150 円。まちセン内　Cafe Drip Drop でお求めになれます。
お土産に、お茶うけにぜひどうぞ。
Cafe Drip Drop では、あたためてお出ししています。
あったかいと尚一層美味しいと評判です。

まちセン３階では「はこだて『まちのチカラ』サポートデスク」を開設しています。
窓口は、年中無休　9：00～17：00　地域のチカラを求めています。

ようこそ！どんぐり２号店



まちづくりセンターに一番近い施設が、東川町にある社会福祉法人「かいせい」です。かいせいでは､毎日クッキー、菓子類、パンなどを作っています。そこで作った製品は、どんぐり･２のほか、色々な所で販売しています。

どんぐり・２の当番のスタッフたちは、一般企業などへの就労を目指している人たちで、たくさんの方々のご協力のおかげで、人との接し方などを訓練しています。

彼らは、自分自身をしっかり主張する人、また、少し主張が苦手な人など様々ですが、私たち支援する側の職員は、一人ひとりにオーダーメイドの支援を行っています。みんな顔が違うように、性格や育った環境など、まちまちです。声をかけられ、はにかむ人、「いらっしゃいませ」と声が出る人、元気な人、・・・。

でも、まちセンに行くのが皆たのしみな様子です。

今後とも、彼らの応援をよろしくお願いいたします。

福祉の店「どんぐり２号店」（まちづくりセンター内）
営業時間／ 10：00 ～ 16：00　定休日／毎週火曜日

製品は、函館市総合福祉センター１階、函館市役所地下売店、福祉の店「どんぐり」（ブーランジュ梓 内）でも販売しています。

cafe Drip Drop

cafe Drip Drop 米田尚子

雪が降りだすとわくわくするのはなぜだろう。寒いし、日暮れは早いし、雪道の運転は気疲れするし…とマイナスポイントを並べてみても子どもの頃から持っている、冬を楽しみに待ち焦がれる気持ちは色あせない。

春から秋まで野菜のメニューが中心でしたが、寒くなってからはからだを温めるものやエネルギーに代わる食材を使ったものが多くなってきました。

《スリランカカレー》

土日限定で提供しているカレーは、スリランカ産のスパイス・ハーブと玉ねぎ・トマトをベースに作っています。豆やきのこ、ほうれん草など週によって素材が変わります。カイエンペッパーで辛さを調整してお召し上がりいただけます。

《肉巻きおむすび》

自分が食べたくて作ってみたメニューです。豚巻きと牛巻きの２種類あり、中のごはんにはルッコラや大葉を混ぜ込みました。

《ホット・ジンジャー》

前号でお知らせしたジンジャーシロップのお湯割りがじわじわと人気上昇中。冷え込む日は、これ一杯でほかほかしてきます。

カフェOPEN ： 10 ：00―18 ：00　　定休日 ： 水曜日
ホームページ ： http://handpick.cafe.coocan.jp/

函館市地域交流まちづくりセンターは、
ＮＰＯやボランティアなどの活動の場、
市民交流の場、
地域情報の発信の場
としてさまざまな活動にご利用いただけます。

市民活動やＮＰＯについて相談したい方
市民活動やＮＰＯの情報が欲しい方
市民活動やＮＰＯの会報やチラシを作りたい方
打ち合わせ場所がほしい方
研修会や展示会場を探している方
観光情報や地域情報が欲しい方
ご利用をお待ちしております。

開館時間：　午前 9 時～午後 9 時
休 館 日：　年末年始（12/31 ～ 1/3）　＊器材点検のため月 1 回程度臨時休館する場合があります。

フロア	区分	ご利用料金		備考
		単位	金額	
市民交流フロア／ 2F	研修室（A，B）	1 室 1 時間までごとに	500 円	24 人利用可
	フリースペース	1 日につき	10,000 円　＊	約 272 ㎡
市民活動支援フロア／3F	会議室（A，B）	1 室 1 時間までごとに	300 円	24 人利用可
	ロッカー（大）	1 個 1 ヶ月につき	400 円	
	ロッカー（小）	1 個 1 ヶ月につき	200 円	
駐車場		2 時間無料、超過 30 分までごとに 100 円 駐車場は、当センター裏側、入り口が南部坂沿いにあります。		

＊入場料のあるもの、物品販売などは別の利用料金となります。おたずねください。

備品貸出　音響セット 500 円～ 10,000 円、プロジェクター 800 円、スクリーン 200 円

印刷機使用料（用紙代別）について

1，　製 版 代　　１枚・・・・１００円
2，　印刷枚数　　１０枚まで・・・・１０円　（以後１０枚毎に１０円加算となります。）
　　※ 例　１２枚は２０円、１３７枚は１４０円、１５４３枚は１，５５０円です。
3，　１の製版代＋２の印刷代が必要です。

注意：印刷用紙は各自でご用意ください。また、小銭のご用意をお願いします。

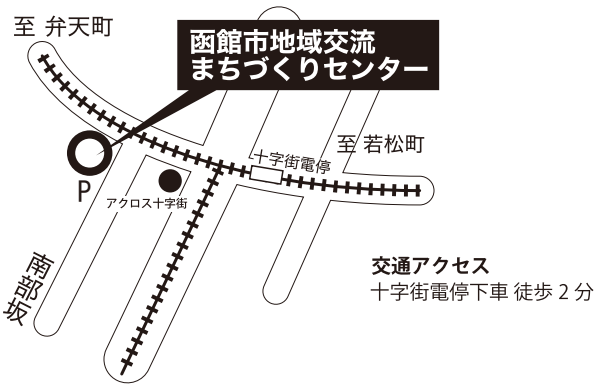
カラーコピー料金（用紙代含む）について

・白黒　　A4，B4，A3・・・・1 枚１０円
・カラー　　B5，A4，B4・・・・1 枚５０円　　・A3・・・・1 枚１００円

横断幕プリント / ポスタープリント（用紙代含む）料金について

＊横断幕は文字原稿、ポスターはチラシ又は PDF 形式で原稿をお持ちください。

・長尺 610mm × 1.5m・・・2,400 円 / 枚　　・長尺 610mm × 3m・・・ 2,600 円 / 枚
・長尺 610mm × 4m・・・・2,900 円 / 枚　　・長尺 610mm × 5m・・・ 3,200 円 / 枚
・A2 版（420mm × 594mm）・1,200 円 / 枚　　・A1 版（594mm × 841mm）・・1,400 円 / 枚



函館市地域交流まちづくりセンター
〒040-0053　函館市末広町 4 番 19 号
TEL 0138-22-9700
FAX 0138-22-9800
E-mail toiawase@hakomachi.com
URL　http://hakomachi.com/